

孤独

2025. 3. 6

孤独というとマイナスのイメージがあるかもしれない。だが、ものを考えるためには孤独が必要である。もちろん、誰かと一緒に考えるということもあるだろう。そうだとしても、人はまず一人で考える。誰かと対話していても、相手の話を聞きながら、人は孤独に考えている。そうでなければ、考えているとは言えない。

孤独とは、どういうことなのだろうか。孤独とは、私が私自身と一緒にいる状態だという人がいる。私が私自身に向き合っている状態言ってもいい。この、私が私自身に向き合っている状態を手に入れることは、さほどむずかしいことではない。

人は自分自身と一緒にいられないときがある。私が私自身と一緒にいられない。そうなると、一緒にいてくれる誰かを捜し求めるようになる。そのときに、私が感じるのが寂しさであろう。

なぜ自分自身と一緒にいられないのか。どうして孤独でいられず、寂しさを感じてしまうのか。様々な原因が考えられる。寂しさとは、人間にとって最も絶望的な経験の一つである。この絶望の中では、ものを考えたりすることはできない。

若いとき、特に思春期の時期には、孤独を感じことがあるかもしれない。だが、それは友達ができないとか、自分を認めてくれる人がいないとかというレベルではなかろうか。逆に、私が私自身と一緒にいることができているのではなかろうか。私自身と向き合っているのではないか。このようなことを大人になると言っているのかもしれない。

自分の場合だが、孤独でないと考えることができない。日常では、まわりに人がいても考えてはいる。会話しながら考えている。しかし、本当の意味での考えるとなると孤独がいい。だから、校長室などのように個室があると助かる。今は、職員室にいるため、一人になる時間は少ない。どうも、校長室での考え方慣れてしまったようである。

この「園長通信」は、一人でないと書けない。考えながら書いている。自分自身と向き合いながら書いている。したがって、家に帰ってから書斎のパソコンに向き合うことが多い。土曜日の午前中が最高である。じっくりと自分に向き合うことができる。いつもよりも思考が進む。すなわち、孤独になることができる。

孤独はいい。孤独は必要である。孤独がないと、生きている実感もない。孤独は、寂しいものではない。とはいって、自分自身と一緒にいることができないと、ときに人は寂しさを感じてしまう。考えるためにも孤独は必要である。